

第3回 現地活動報告(日程 2011.3.20~22)

株式会社危機管理教育研究所

首記につきまして、皆様の善意の品を下記の通り持参致しましたのでご報告申し上げます。

記

1. 日程	平成 23 年 3 月 20 日(土)~22 日(火)	
2. 実施	危機管理教育研究所(日本助産師会、NPO 愛知ネット、NPO 国境なき技師団、株式会社 Y エンジニアリング、WASEND、北川工業株式会社、株式会社谷沢製作所、株式会社クニザキ様他との連携・ご支援にて実施)	
3. 行程	<p>今回の搬送は物資の量が多いため、やっとの思いで 2tトラックを手配しました。19日に引き続き赤帽さんがドライバーを務めてくださいました。3日間で横浜岩手を2往復という強行スケジュールにも関わらず、参加できて良かったと言ってくださいました。本当に有難いです。その他ワンボックスカー2台で人と物資を運びました。</p> <p>■往路</p> <p>3月20日</p> <p>21:45 横浜出発</p> <p>23:00 東北道</p> <p>23:10 蓮田 SA 通過</p> <p>23:45 佐野 SA トラック給油</p> <p>3月21日</p> <p>00:45 矢板北 PA 休憩</p> <p>02:40 安達太良 SA トラック給油</p> <p>04:00 菅生 SA トラック給油</p> <p>05:30 前沢 SA 給油</p> <p>07:30 水沢 IC 一般道へ</p> <p>08:45 大船渡社会福祉協議会</p> <p>10:05 大船渡市役所</p> <p>11:40 広田小学校</p> <p>12:50 モビリアキャンプ場</p> <p>14:00 陸前高田市広田小学校 (物資提供および心のケア活動)</p> <p>14:30 トラック帰路へ</p> <p> モビリアキャンプ場 (心のケア活動)</p> <p>18:30 大船渡社会福祉協議会</p> <p>3月22日</p> <p>06:30 モビリアキャンプ場</p> <p>07:00 小友町被害調査</p> <p>08:00 陸前高田市米崎小学校 (物資提供と心のケア)</p> <p>09:00 陸前高田市高岡第1中学校</p> <p>■復路</p> <p>12:00 陸前高田市米崎小学校 出発</p> <p>13:30 東北道走行(水沢 IC~)</p> <p>14:30 前沢 SA 給油</p> <p> : 那須高原 PA 給油</p> <p> : 蓮田 SA</p> <p>22:15 解散</p>	
4. 訪問先	<p>① 大船渡市役所</p> <p>② 陸前高田市広田小学校</p> <p>③ 陸前高田市モビリアキャンプ場</p> <p>④ 陸前高田市米崎小学校</p> <p>⑤ 高田第1中学校</p>	<p>各避難所に救援物資を提供</p> <p>今後のサポートについて打合せ</p> <p>被災者への心のケア活動</p> <p>(紙芝居、絵本読み聞かせ、外遊び、肩もみ、ハンドマッサージ、コーヒー&紅茶&ココアのティータイムサービスなど)</p> <p>被災地と全国被災地支援関係者とのネットワークづくり</p>

5. 支援品	<p>幼児用紙おむつ(約 300)、粉ミルク(10 缶)、大人用紙おむつ(約 100)、毛布(約 50)、上着(男女各 50 程度) 防寒着(男女約 30)、下着(男性約 50、女性約 100)、マスク(10箱)、子供服(約 20)、靴下(約 50)、生理用品 おんぶ紐、タオル、靴、長靴、靴下、カイロ、手袋、さらし、電池、携帯充電器他</p>
6. 概況	<ul style="list-style-type: none"> ● 大船渡市では徐々に携帯電話の通信状況が改善されつつあるが、IP電話、固定電話、インターネット回線はすべて機能せず。NTTでは復旧の見通しがたかないとのこと。市のHPをUPできず情報を発信できない。 ● 岩手県内の市町村からの仮設住宅の申し込みは現在でも1万戸越え。建築資材が足りない。 ● 大船渡市の仮設住宅の候補地について県の職員が3月21日に視察に来た。 ● 大船渡社協が担当をしているボランティア窓口には、秋田県社協が応援 12日から自発的に元気な市民が集まり、ボランティア活動している。ボランティアの受付対象は市内のみ。活動内容は社協に関係のある民生委員さんからの情報を元に実施。活動時には社協職員が同行する。職員分しか処理できない。(5件/日程度)ニーズ募集の一般市民への拡大、市街ボラの応募等はまだまだ考えられる状態にない(事務局長談) ● 避難所内に想像していたより悲壮感が漂っていなかった。数日前から物資がちゃんと入って来るようになったせいだけではなく、避難所運営が地域住民全員で行われていることによるものではないかと思う。又、避難所内で必要な仕分け等の作業も自発的なボラ活動で補う等、「外部ボラの力による支援」を考えていた者としては「あるべき理想の姿」を見たような気がした。そこに外部ボラが入ることによって、それが崩れることを懸念する。 ● 陸前高田市広田地区本部(広田小学校)では、衛星電話を使用して外部とのやり取りをしている。 ● 周辺の中沢地区、長洞、モビリアキャンプ場など他の避難所の様子について情報が入ってこないということで、近くのモビリアを訪ねることにした。 ● モビリアでは20世帯およそ90人(子どもが20名、妊婦さん1人)が暮らす。ここには妊婦向けにおもちゃと出産準備用グッズ等も提供した。 ● 近くの避難所の様子はガソリンがないために行き来できずわからないという。モビリアでは電気は通じていた。水は奈良県の水道局の支援により貯水タンクに半分ほどの水がある。トイレは沢の水を使っている。近くに薪を使ったお風呂を使用している民家がまだあり、井戸や沢の水を沸かして入っている。10日ぶりに入った。モビリアで欲しいものは耐油グローブ、作業着というリクエストあり。 ● 「モビリアでは携帯電話が通じず、山の上にある電波状況の良い場所まで1日1回登り定期報告している。」 ● 「21日から燃料がスタンドに入ってくるというニュースがあったが、陸前高田市ではすべてのガソリンスタンドが破壊された。燃料をどうやって供給するのかが疑問。とにかく燃料が欲しい。」 ● 「ニュースでは物資は足りているというが、何をもって足りているというのか。今生きる分は足りているが、すべてを失った人には、今後の暮らしで足りないものが山ほどある。」 ● 心のケア活動では子どもには読み聞かせ、おにごっこ、紙芝居、アニメの上映などを行い、大人には肩もみ、ハンドマッサージを行った。 ● 子どもたちはそれぞれのプログラムに夢中になり、別れ際、ずっと手を振り「また来てね」と手を振り続けてくれた。これから別の町に転校する子供も少なくなく、友達同士の涙の別れの場面もあった。 ● 肩もみやハンドマッサージはどの避難所でも好評で、感謝された。皆さんの肩が手の凝りは強く、ほぐしながら被災者の方から被災当日のことを語ってくれた。どの話も聴くに辛く、励ましの言葉を言えずに涙が出た。 ● 「陸前高田市では消防署と市役所が津波によって消滅した。指揮系統が麻痺し、災害対応に統括しきれていない。これが支援の遅れの最大の原因ではないかと思う」避難所運営者の声。 ● 「テント村」があると聞いて立ち寄ったが各地から集まった消防車&職員のテントだった。消防職員基地 ● 高岡第1中学校の避難者数:1250人(3月15日現在)。給食センターは食品のみを受入れ、他の物資は別の場所で受入れ&仕分けをするらしいが、今回は少量ということもあり、給食センターへ搬入(積んでいったモノを全ておろし→どうせ、仕分けるからとの判断) 避難所内には「ボランティア受付」があり、避難所を含む周辺住民が仕分け等の活動を実施 作業中にエリアメールによる地震警報があり避難するように指示があった。(壁の剥がれた跡あり)

7.通信状況

陸前高田市広田町 携帯電話電波状況
(2011. 3/21現在)



Google マップ 大船渡市 携帯電話電波状況
(2011. 3/21現在)



http://maps.google.co.jp/maps?f=q&source=s_q&hl=ja&geocode=-Rq-%E5%B2%A9%E6%89%8B%... 2011/03/24

8.活動写真

スタッフの森久さんが一日でトラックの荷室を作って下さいました。雨に濡れることなく運べました。



トラックから物資を降ろしている様子



大船渡市社会福祉協議会に搬送している様子



大船渡市社会福祉協議会に届けた物資



大船渡市役所(給水設備)



大船渡市役所に届けた物資



陸前高田市広田小学校(物資を分ける避難者)



広田小学校(地区本部長に国崎挨拶)



広田小学校の体育館に運ばれた物資



届いた荷物をすぐに仕分ける避難所の方たち



広田小学校のさまざまな指定場所に運ばれる物資



広田小学校に荷室を寄贈(仮設風呂の脱衣所用に)



モビリアキャンプ場(避難所運営者の方と国崎)



モビリアの子どもたちにアニメビデオが喜ばれた



米崎小学校での心のケア(紙芝居)



米崎小学校での心のケア(絵本読み聞かせ)



以上